

はじめに

インターネットの普及に伴い、様々な情報が素早く、簡単に入手できる時代となった。しかしその反面、有害なコンテンツを含むサイトも多数出現し、特に、心身の成長過程にある少年にとってこれら情報の氾濫は、現代社会が解決すべき、大きな問題のひとつであると言える。そのなかのひとつとして、いわゆる「出会い系サイト」がある。

「出会い系サイト」とは、見知らぬ者同士がインターネット上の掲示版や、電子メールでのやり取りを通じて、容易に知り合うことができるサイトのことである。このサイトを用いれば、たとえ互いの距離が離れていても、同じ趣味の仲間や、悩みを相談する相手を容易に、かつ短時間に見つけることが可能となる。

しかし、近年このサイトの一部が 18 歳未満の児童を性的に搾取する、いわゆる「援助交際」の相手方募集に利用されたり、自分の身分や性別、目的を欺いた相手におびき出され、犯罪に巻き込まれるなどの事案が発生している。

これらを背景に、本研究会では平成 13 年度からインターネット上の少年に有害なコンテンツ対策研究として、この「出会い系サイト」を含めた調査研究を行ってきたが、平成 14 年度は、新たに「青少年と出会い系サイトに関する調査」研究事業として、少年に対するアンケート調査を実施するとともに、少年に有害な「出会い系サイト」の実態を明らかにし、それらと少年とを切り離す対策について、幅広く研究を行うこととした。

第 1 情報通信環境の変化と、少年による「出会い系サイト」の利用

1 少年を取り巻く情報通信環境の変化

先述のとおり、ここ数年でインターネットは急速に普及し、平成 13 年末における我が国のインターネット利用者数は推計で約 5,593 万人（前年比 18.8%増）、インターネット人口普及率は 44.0%、同様に世帯普及率は 60.5%となっている。また、携帯電話の加入契約者数は約 6,912 万人（前年比 13.4%増）となっている。

（平成 14 年版 情報通信白書から）

一方、平成 14 年 12 月に行われた中高校生 595 人に対して行われたアンケート調査によれば、少年の携帯電話・PHS の普及率は、高校生で約 88.9%（前年調査では約 83.1%）、中学生で約 40.2%（同約 23.0%）となっているが、特に携帯電話の普及率が高く、少年がパーソナル性の高い携帯電話を用いて簡単にインターネットに接続可能な状況にあり、また前年（平成 13 年）の調査と比べても、その所持率が高くなっている状況にある。

こうした事から、近年、少年による「出会い系サイト」の利用も、増加傾向にあると考えられる。

2 少年による「出会い系サイト」の利用状況

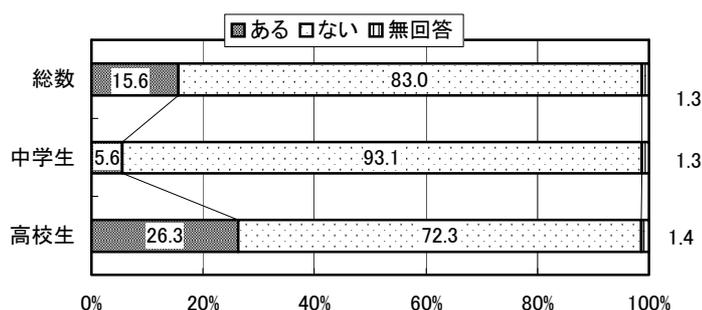
平成 14 年 12 月に実施した、先のアンケート調査（注）によると、「出会い系サイト」に関する質問では、同サイトに接続した経験があるのは、中学生では 5.6%（前年調査では 4.4%）、高校生では 26.3%（同 20.7%）との結果であり、高校生のうち 4 人に 1 人は「出会い系サイト」に実際に接続したことになる。

なお、接続率が高かった高校生を男女別にみると、男子の接続経験が 32.9%（前年調査では 18.4%）、女子が 17.6%（同 22.0%）で、男子の割合の方が高く、また、前年と比べ男女別で逆転している。しかしこのうち相手と知り合い、実際に会った経験をみると、男子では 41.5%（前年調査では 27.8%）であったのに対し、女子では 47.1%（同 43.2%）で男子よりも高く、接続経験のある女子高校生の 2 人に 1 人は実際に相手と会っていることになる。

一方、平成 13 年の調査ではあるが、これら中・高校生を持つ保護者 465 人に対する調査で、「あなたのお子さんはパソコン、携帯電話や PHS を使って出会い系サイトを利用したことがあると思いますか」との質問をしたところ、「思う」との答えが中学生の保護者では 1.2%、高校生の保護者では 3.8%に過ぎず、それ以外は「思わない」「分からない」「無回答」であった。このことから児童による「出会い系サイト」の利用実態を、保護者らも正確に把握していないということが窺える。

（注：平成 13 年 9、10 月及び平成 14 年 12 月に、本研究会が行ったアンケート調査から）

中高生者の「出会い系サイト」利用経験



相手に実際に会った経験(高校生のみ)

